

「特集」

旅人Ⅱ金子信久 文Ⅱ橋本裕子

京都
動物アートを
めぐる旅

18 特別鼎談 動物アートの魅力 @京都国立博物館

20 動物を探して 京都、美術散歩「前編」

25 コラム 「千支の動物画」の楽しみ

30 動物を探して 京都、美術散歩「後編」

39 京都 動物アートをめぐる旅「案内図」

まつぎだけひこのドキドキ♥遺跡旅

50 宝塚古墳 「三重県松阪市」

おいしいもんには理由がある 文Ⅱ土井善晴

60 ハイカラ港町の洋食 「兵庫県神戸市」

京都の路地 まわり道

7 文Ⅱ千宗室

私の歩幅

ひとときエッセイ「そして旅へ」

9 文Ⅱ林家彦いち

生月島の夜

あの日音

11 文・絵Ⅱ北阪昌人

風を切る二つの腕

わたしの20代

12 塚谷裕一 植物学者

ホントビ！ 文Ⅱ川内有緒

42 堂場瞬一著『チーム』

「神奈川県足柄下郡箱根町」

ナラカルト

46 古都で過ごす夜は奈良のBARへ

地元エール これ、いいね！

54 土佐の皿鉢料理「高知県高知市」

ちよいとお江戸の読み解き散歩

57 歌川広重「東海道五拾三次之内

岡崎矢矧之橋」

ホリホリの旅の絵日記 文・絵Ⅱ堀道広

85 仙台大観音ほか「宮城県仙台市」

66 旬 News & Topics

68 美 Art & Entertainment

70 遊 Event & Festival

旅の小箱 from JR西日本、JR東海

72 「Japanese Beauty Hokuriku」キャンペーン
冬こそ楽しみたい北陸の旅75 樹木、かまくら、温泉……
北信の魅力満載！76 京都デザインエディションキャンペーン
第57回「京の冬の旅」

77 溝縁ひろし写真展

昭和の祇園・花街とともに

78 JR東海沿線・東京・愛知間
話題のサウナへお得なプランで80 「東京ギフトパレット」
「東京おかしランド」81 「リニア・鉄道館」で
冬のイベントを開催中

82 ひととき倶楽部

読者からのお便り・投稿写真
今月のプレゼントなど

84 次号のお知らせ

86 ルートマップ
東海道・山陽新幹線時刻表京都市下京区にある本願寺
(30頁)の白書院(通常非公開)の「孔雀の間」。樹木と孔雀を中心とした金碧花鳥図が豪華絢爛 写真＝中田 昭

特集

京都 動物アートを めぐる旅

京都で
待ってるよ!



新年を寿ぐ1月、2023年の
干支である卯（兎）をはじめ、
さまざまな動物が登場する
美術作品を探して、京都を旅します。
旅人は、かわいい動物に着目して、
日本美術ブームを牽引してきた
府中市美術館（東京都）の
名物学芸員、金子信久さん。
由緒あるお寺から、
かわいい版画が楽しめるお店まで、
動物アートの名所をめぐり、
日本で動物の美術が花開いた
その歴史を紐解いていきます。

旅人＝金子信久

Kaneko Nobuhisa

文＝橋本裕子

Hashimoto Yuko

写真＝中田昭

Nakata Akira

京都国立博物館の人気キャラクター
「トラりん(本名:虎形琳ノ丞)」。
土・日曜、祝日には1日3回ほど館内に
登場する（詳細は公式ホームページ
を参照）。トラりんの後ろの建物は、
開館以来の“京博の顔”明治京都館

新作兎柄にも注目！

動物版画

@竹笹堂

京都には、家と家との間を縫うように走る「辻子」と呼ばれる小路がある。四条通の中ほどで折れ曲がり綾小路通まで抜ける膏薬辻子もその一つ。石畳の辻子をくねくねと歩いてたどり着いたのは、柿渋色の地に「木版画」と白く染め抜かれた暖簾がかかる「竹笹堂」である。

「今年の夏の盛り、38度の暑さのなかでフラフラしながら見つけた、木版画屋さんです」と金子さん。京町家ならではの低い引き戸をくぐってお邪魔する。

竹笹堂は1891（明治24）年創業の「竹中木版」の摺りの技術を継承し、それまでの受注生産だけでなく現代に通じる仕事を生み出すために、竹中木版5代目の竹中健司さんが1999年に設立した。竹中木版4代目の当主・竹中清八さんは、明治時代に作られた仁和寺の『孔雀明王像』の複製木版画を再摺りするプロジェクトに携わった名人だ。

「熟練の先輩職人と約1年かけて1300回以上摺り重ねて完成したそうです」

そう教えてくれたのは、竹笹堂スタッフの加藤光穂さん。



【左】静かな小路に暖簾を掲げる竹笹堂 【右】木版の魅力語る、6代目摺師の原田さん（右）と金子さん



の真っ最中だった。

版木の上で糊と絵具を刷毛でなじませながらのぼし、紙を載せる。紙をバレンでこする原田さん。その一連の動作はよどみなく美しい。金子さんは息をするのも忘れたように原田さんの手元に見惚れている。はらりと、原田さんが紙をあげた。

「2023年の干支、卯をモチーフにした新図案『うさぎつなぎ』です」（原田さん）
和紙に鮮やかに浮かび上がった愛らしい兎さんたちに、一同思わず拍手。

「すごくかわいい！ 伝統的な幾何学文様なのに、とてもモダンです」（金子さん）

原田さんは大学卒業後、4代目の清八さん、5代目の健司さんに弟子入りして以来20年間、摺師として腕を磨いてきた。現在は摺師としてだけでなく、木版画作家、デザイナーとしても活躍している。

「この『うさぎつなぎ』はすべてコンパスで描けるんです。幾何学文様は平安時代からの伝統。そうした伝統に敬意を払いながら、現代の人の感性にも響くデザインで木版画を広めていきたいと思っています」
そう語る原田さんを、師匠の健司さんが作業の手を止めて鷹揚に見つめる。

「兎は縁結びの吉祥柄。『うさぎつなぎ』は、良い縁がずっと続くようにと願いを込めて、四方につながる文様で兎を表しました」と教えてくれた原田さん。明るい新年を予感させる朗らかな笑顔が印象的だった。

原田さんの手で次々と摺り出されていく2023年、卯年のための新作「うさぎつなぎ」。伝統的な文様と、現代の斬新な造形感覚が溶け合って生まれた吉祥柄だ





第2回

古代を愛する旅人が日本各地の遺跡を訪ね、そこに暮らしていた人々の鼓動を伝える連載、その名も「ドキドキ♥遺跡旅」。

国立歴史民俗博物館教授の
松木武彦さんが心ときめく遺跡を巡ります！

旅人＝松木武彦 写真＝佐々木実佳 文＝編集部
Matsugi Takehiko Sasaki Mika

宝塚古墳／松阪市文化財センター「はにわ館」へ三重県松阪市へ 王者のシンボル？ 巨大船形埴輪の謎

「日本最大級の船形埴輪を見に行きませんか？」

松木さんの提案を受けてやって来たのは、三重県松阪市宝塚町。周辺には、昭和40年代まで80基以上の古墳があったそうだが、宅地の造成工事などで残念ながらほとんどが姿を消してしまったという。そんななかでも残ったのが、5世紀初め（約1600年前）から前半にかけて造られた「宝塚古墳」だ。「造り出し」と呼ばれる平らな舞台を備えた1号墳と、前方部が短い「帆立貝式」とよばれる2号墳のふたつの古墳からなり、現在は公園として整備されている。ところで松木さん、造り出して何ですか？

「死者を送る祭祀の場と考えられています。宝塚1号墳のように前方部と後円部の境目のくびれ部分に付いているのが一般的。宝塚古墳が貴重なのは、造り出しの周囲から、家形、蓋形、盾形など140点以上の埴輪群が当時の位置のままで見つかったことです。このことで、当時の『まつり』における、埴輪の種類や組み合わせ、配置もわかったわけですから」

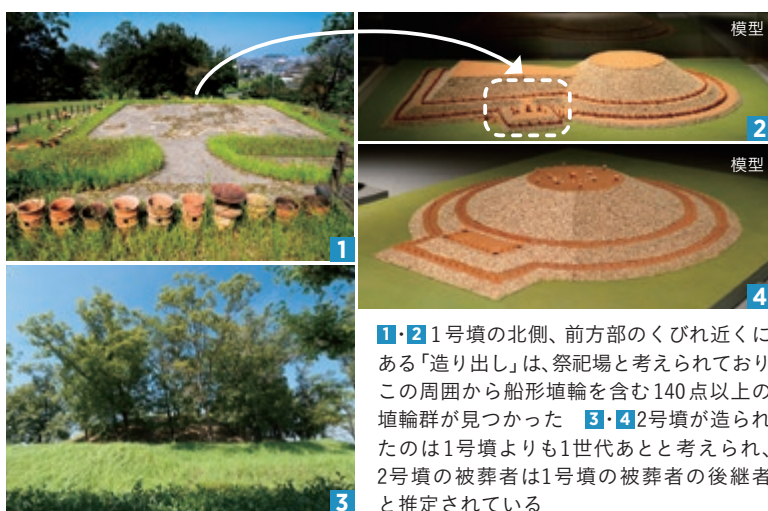
このように奇跡的に残された遺跡から、今回のお目当て、日本最大級の船形埴輪も出土した。宝塚古墳公園内には造り出しが復元されており、出土した場所と同じ位置（西側）に模造品の船形埴輪が。とはいえ、埴輪というと真っ先に人物の形を思い浮かべる人も多いのではないだろうか？ この船形埴輪には一体どんな意味があるのか――。

「1号墳は地域を代表する首長の墓と考えられています。埴輪は生前の首長の活動を表すものですから、船と関係が深い人物だったのでしょうか。一方で、亡くなった首長

【宝塚古墳／松阪市文化財センター「はにわ館」概要】松阪市街地から南に3キロほどの丘陵にある5世紀前半に造られた古墳。伊勢湾西岸では最大の方後円墳である1号墳と帆立貝式古墳の2号墳からなる



地図＝atelier PLAN



1・2 1号墳の北側、前方部のくびれ近くにある「造り出し」は、祭祀場と考えられており、この周囲から船形埴輪を含む140点以上の埴輪群が見つかった 3・4 2号墳が造られたのは1号墳よりも1世代あつと考えられ、2号墳の被葬者は1号墳の被葬者の後継者と推定されている

の魂をあの世へとは運ぶ「葬送船」の意味もある。造り出しには想定上の水道も造られています」

そう松木さんが話す通り、造り出しの周囲からは「水のまつり」を表現するとされる囲形埴輪（湧水施設形と導水施設形）も出土。これらは、造り出しを挟んでほぼ対称に配置されていた。水はあの世とこの世を隔てる境界線という意味合いを持ちながらも、生活に欠かすことのできない存在であり、安定した暮らしを願って祈りが捧げられていたのかもしれない。聞けば地元では、新春の恒例行事として1号墳から初日の出を拝むという。晴れた日には伊勢湾までも望める、じつに気持ちのいい場所だ。

せつかくなので2号墳にも登ってみる。草むらをかき分け頂上に到達すると、1号墳同様に見晴らしは抜群。ふと足元を見ると、墳丘の表面にごつごつとした石がちりばめられていた。

「これは葺き石ですね。古墳を補強する目的もありますが、装飾することで格式を示すものでもあります。2号墳が造られたのは1号墳よりも1世代あとで、2号墳の被葬者は1号墳の被葬者の後継者と推定されているようです。全長こそ1号墳より小さいですが、後円部の直径は1号墳に比べて大きく、墳頂平坦面の面積も広い。勢力的には1号墳の被葬者に劣らない実力者であったのではないのでしょうか」



「宝塚古墳公園」では1号墳の造り出しの部分が復元され、埴輪群の復元模造品が展示されている。船形埴輪を発見！

豪勢なビジュアルと合理的な発想の取り合わせ

土佐の皿鉢料理

高知県高知市



「土佐料理 司 高知本店」の皿鉢料理。総料理長・伊藤範昭く(のりあき)さん曰く「豪快さが皿鉢料理の真髄です」。同店は、郷土料理を「土佐料理」と命名して広めた1917(大正6)年創業の老舗

文＝神田綾子 写真＝阿部吉泰
Kanda Ayako Abe Yoshitomo

「土佐料理 司 高知本店」の目を見張るほど立派な皿鉢料理を前にしてお話を伺ったのは、RKC調理製菓専門学校の元校長で、土佐料理に精通する三谷英子(ひでこ)さん。皿鉢料理の起源は直会(なおらい)にあり、江戸時代、本膳料理に彩りを添えるために、料理を大皿(皿鉢)で供したのが始まりだという。

「その後、皿鉢料理は形式を重んじる本膳料理から離れて、土佐ならではのいきなり文化と結びつきながら独自に発展し、郷土料理として定着したんです」

「おきやく」とは土佐弁で宴会のこと。気どらない宴で杯を交わすのが大好きな土佐の人。そこに欠かせないのが皿鉢料理なのだ。

皿鉢料理は、特定の料理を指すわけではない。「大皿に盛りつけてあれば皿鉢料理。ルールはあってないようなもの。ただ、会席料理と同じように前菜からメイン、甘味まで……全部盛り込むのが基本ですね」と三谷さん。

おきやくの規模に応じて皿鉢の数は変わるが、もともとは、旬の魚の刺身のみを盛りつける「生」と、寿司や煮物、揚げ物、果物な

*1 祭事後に神前から下げた神酒(みき)や神饌(くしんせん)をいただく酒宴

*2 日本料理の正式な膳立て

おいしいもんには
わけ
理由がある

第49回

文〓土井善晴
Doi Yoshinori
写真〓岡本寿
Okamoto Hisashi

「伊藤グリル」の自慢は、神戸牛の肉料理。看板メニューのビーフシチューは、肉のうま味が溶け込んだ濃厚にして澄んだ味わい

古来、港として外国船が往来した神戸には、洋食文化が根付いています

ハイカラ港町の洋食

《兵庫県神戸市》

20代の頃、神戸に住んでいたという土井さん。町はずいぶん変貌したけれど、変わらない鯉川筋や生田神社あたりを歩き、にしむら珈琲店で一息つき、「懐かしいわ」と、あの頃に思いを馳せているようです。取材日はあいにくの雨だったが、大きな客船が停泊する神戸港をぶらりと歩けば、心浮かれてマドロス気分

どいよしはる／1957年、大阪府生まれ。料理研究家、十文字学園女子大学特別教授。NHK「きょうの料理」に出演。『一汁一菜でよいという提案』（新潮社）など著書多数



20歳を過ぎた頃、早く料理をやらなければと焦り、現場で学ぼうと、神戸の北野町にあったフレンチレストラン「ビストロ・ド・リヨン」で、大学に通いながら仕事をさせてもらっていました。北野町には、日本に本物のフランスパンをもたらした「ビゴの店」があつて、いかにも力持ちのパン屋さんらしい体格をした、オーナーのビゴさんご自身が配達に来ていました。

「ビストロ・ド・リヨン」にフランス人の神父さんが一人で食事に来ると、いつも大きなオムレツを焼いたものです。ドイツパンで知られる「フロインドリープ」のバルミエ（パイ菓子）が好きでした。「にしむら珈琲店」で宮水の^{みやみず}コーヒーを飲むのが楽しみでした。

大阪に生まれた私にとっても神戸は、大阪より、ちょっとだけモダンで、ほんの少し品のいい、わりかたこぎれいな感じがします（笑）。まあ、きれいな人が多い。

神戸は面白いところですから、今回の取材は楽しみでした。改めて考えてみると、神戸には、外国からいろいろなもんを受け入れて、共存する伝統があるようです。

新しさと伝統が共存

ハイカラな神戸は文明開化以後の新しい都市と思われがちですが、その歴史はさくぶる古い。神戸の中心街にある生田神社は1800年以上前に創建された古社。「生田」とはいきいきとした生命力あふれる場所の意。生田の神を守る家というのが、神戸の由来です。神戸という地名は古事記、日本書紀にも登場するのです。

12世紀（平安時代）に大輪田泊^{おおわだのまり}と呼ばれていた神戸は、すでに京都と瀬戸内海を結ぶ交易の拠点でした。平清盛は、中国の大きな船が入港し、安心して停泊できるように海を埋め立てて人工の島を作り、日宋貿易を始めました。中国からは宋銭が大量に入ってきて、日本で使われるようになりました。1401（応永8）年に足利義満が遣明使を送って日明貿易が始まると、神戸はその拠点ともなりました。

幕末になると、1868年（旧暦慶応3年12月7日）の開港に伴って外国人向けの特別居留地が認められ、造成されます。貿易経験のない神戸の日本人と外国人の関係